

学校教育目標	よく考え 進んで学ぶ子/すなおで 思いやりのある子/心も体も たくましい子/仲間と 協力し合う子
目指す学校像	地域から愛される 東大成小学校
重点目標	1 子どもたちが生き生きと学習できる学校経営 2 特別活動をととした児童相互のよりよい人間関係の育成 3 「多くの目で育てる子ども」の実現に向けたコミュニティ・スクールの推進 4 敷地内樹木の適切な剪定及び老朽化遊具の撤去により、安全性確保 5 教職員のワークライフバランスやキャリアに合わせた勤務の管理

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和8年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ・体験型学習を積極的に取り入れ、具体的にイメージできる学習機会を増やすことで学びの理解を深める取組をしている。 <課題> ・R6市学力状況調査の結果を受け、国語「話すこと・聞くこと」及び算数「データの活用」についての学力の向上を図る必要がある。 ・体力向上、特に市平均よりも低い投擲力及び持久力を高める必要がある。	ICT機器端末と体験のさらなるハイブリッド学習	・国語「話すこと・聞くこと」及び算数「データの活用」の課題克服を含め、ICT機器を活用しつつ、課題解決型学習の授業改善をさらに進めていく。 ・引き続き体験型学習を積極的に取り入れる。	・校内研修において授業DX部員よりICT機器の活用例を提案することができたか。 ・教員同士がお互いに授業を観合い、フィードバックする機会をつくったか。 ・管理職が授業を参観し、授業改善に向けた指導をしたか。	・授業DX部員よりICT機器の活用事例について具体的な提示をしながら、年3回校内研修において実施した。 ・研究授業や自主的な公開授業を中心に、教員同士がお互いに授業を観合い、フィードバックする機会をつくった。 ・管理職が週に数回授業を参観し、その都度、授業改善及び指導改善に向けた指導を実施した。 ・体験型学習として、走り方教室、童謡コンサート、出前授業等を実施した。	A	・次年度はハードもOSもソフトウェアも変更になるため、授業DX部員を講師としてICT機器の活用方法や活用事例について研修する機会を増やす。 ・管理職や教員がお互いの授業を観合う機会を増やす。よい指導方法や効果的なものを多くの教員が共有できるようにする。 ・クラブ活動や授業における体験型学習の機会を引き続き増やしていきたい。	・体験型学習が充実している。引き続き、地域、保護者の協力を得ながら、体験型学習のさらなる充実に取り組んでほしい。 ・クラブ活動において、地域人材と連携していくとよい。
		体力向上の推進	・体育の学習、業間休み、ロング昼休みを活用し、投擲力及び持久力の向上につながる活動を取り入れる。	・体力向上に向けたキャンペーンの設置をしたか。	・ボールゲームタイムは年間通して実施。ボールゲーム強化キャンペーンを1月に実施。	A	・体力向上をさらに高める取組として、ボールゲームタイムの時間帯を増やすため、次年度はロング昼休みにも位置付けることを検討している。	
2	<現状> ・登校時及び下校時のあいさつがやや消極的である。 ・地域の防犯ボランティアさんのあいさつにしっかりと返せない子どもの様子が見られる。 <課題> ・気持ちのよいあいさつが飛び交う学校へ進化させる必要がある。 ・Sola 一むの稼働率が低いため、アナウンス、不登校児童への手立ての一つとしての提案をさらに盛んにする必要がある。	あいさつが飛び交う学校運営	・3つの「あ」（安全、あいさつ、ありがとう）をキーワードとして、児童の自主的な物理的・心理的安全の確保。 ・児童会活動によるあいさつ運動 ・帰りの会において親切にしてくれた児童へ感謝の気持ちを伝える場をつくる。	・学校評価児童対象質問項目「学校に行くのが楽しい」について肯定的評価の向上(R6:84%→R7:90%)。 ・子どもが安心して教員に相談できる相談体制の充実を図ったか。 ・保護者等が安心してSCやSSWに相談できる相談体制の充実を図ったか。	・学校評価児童対象質問項目「学校に行くのが楽しい」について肯定的評価は82%であった。 ・子どもが安心して教員に相談できるよう、子どもから発せられる小さなサインを見逃さないように、各教職員のアンテナを高くするよう指導してきた。 ・保護者等が安心して教育相談ができるよう、SCやSSWは月に1回教育相談日を設定した。また、管理職や担任は随時教育相談を受け入れる体制づくりを図ってきた。	A	・子どもたちが安心して楽しく学習に取り組めるよう教育活動における物理的及び心理的安全性の確保、困ったときに子どもがSOSを出せる教育環境づくりを引き続き推進したい。 ・保護者等が安心して教育相談ができるよう引き続き随時教育相談を受け入れられる体制づくりやSC、SSWをととして関係所管と連携できるような仕組みのブラッシュアップを図ってきたい。	・不登校が改善されたケースがあるのは、個々の児童がSOSを表現しやすい環境があるからであろう。 ・教育相談体制や仕組みについて学校だより等で周知し、理解啓発を図れるとよい。
		不登校児童への対応	・日常に家族以外の人とコミュニケーションをする機会がもてるよう、家庭と連携しながら児童に働きかけをする。	・Sola 一む、Growth、オンライン授業、教育相談室等のさらなる展開により、長期欠席児童が学習できる機会を増やすことができる働きかけをしたか。	・Sola 一む、Growth、オンライン授業、教育相談室等をととして、誰一人取り残さない学習の保障を図った。不登校児童がGrowthに登校したり、Sola ルームを活用したり、保健室や校長室で心を整えたりする手立てを講じた。その結果、不登校が解消された児童が複数名いた。	B	・不登校児童や教室での学習が困難な児童に対し、Sola 一むや教室以外の部屋等で心を落ち着ける環境を整えたり、いざなり学園や教育相談室など教育委員会と連携したりしながら、心理的安全性を担保できる学習環境を引き続き整えていきたい。	
3	<現状> ・地域の支援や協力の元に学校経営ができているため、児童には地域の行事に参加するよう呼び掛けている。 ・登下校時の見守りについて、学校・家庭・地域の三者が可能な範囲で取り組んでいる。 <課題> ・授業に加え、授業外にも外部人材による体験型学習の機会をもうけたい。 ・特に地域人材の活用を高めたい。	コミュニティ・スクールのさらなる推進	・学校運営協議会において、それぞれの立場での悩みや課題を共有、解決に向けて協働する。 ・悩みや課題を熟議し、課題解決に向けた対応策について三者が実践する。	・課題について開催ごとに確認し、早期課題解決を図ったか。	・下校時の防犯ボランティア不足について、学校運営協議会で熟議し、学校が保護者向けに具体的に見守り箇所を示しながら防犯ボランティアの募集を呼びかけている。	B	・児童が安全に登下校できるように今後も保護者へ防犯ボランティアや見守りの協力を求めている。 ・学校、家庭、地域の課題に対して引き続き熟議していきたい。	・地域人材を活用した教育活動が充実しているため、引き続き取り組んでほしい。 ・児童の見守りについては、地域でもより支援する必要がある。
		外部人材による学びの質の向上	・家庭や地域の方々によるゲストティーチャー及び支援員を確保する。	・教育活動にゲストティーチャー、支援員として家庭や地域の方々の協力を得たか。 ・また、大人の所作など、お手本を身近に見ながら学べる学習機会をつくったか。	・走り方教室、ミシンボランティア、歌手による童謡コンサート、図書ボランティア、昔遊びボランティア等、たくさんの教育活動の場面でご支援いただいた。また、これらの学習をととして子どもたちのロールモデルを示していただいた。	A	・次年度も引き続きボランティアの新規開拓をしつつ、ホンモノにふれる教育活動を推進していきたい。	
4	<現状> ・敷地内（特に道路や住宅と面している箇所）の樹木が生い茂り、安全性が確保されにくい状況である。 ・校庭の遊具に老朽化が進んでいるものがある。 <課題> ・敷地内において安全性の確保が必要とされる樹木は選定しなければならない。 ・老朽化した備品や施設の修繕をすとともに、遊具の修繕及び撤去を実施する。	敷地内樹木の剪定	・敷地内において安全性の確保が必要とされる樹木について市教委と連携を図り、剪定をする。	・樹木の剪定の実施をしたか。	・市教委へは8本程度剪定を依頼し、現在4本剪定されている。 ・東京電力と連携し、電線に架かっている樹木の剪定を実施していただいた。	B	・引き続き安全面や近隣への迷惑とならないよう剪定を進めたい。	・樹木の伐採・剪定、築山の修繕は少しずつ進んではいるものの、まだ完了しておらず、引き続き、対応が必要である。
		老朽化に伴う施設及び遊具の撤去	・老朽化した築山のコンクリートの修繕をする。 ・雲梯に接続しているすべり台を撤去する。	・遊具の修繕や撤去の実施をしたか。	・モッコリ山については、学校運営協議会より市教委へ意見書を提出した。 ・雲梯に接続しているすべり台については、学校予算で撤去する予定である。	B	・次年度は開校70周年となるため、あらためて遊具の修繕や見直しを図ってきたい。	
5	<現状> ・特別活動をととして、児童に思いやり、伝え合い、認め合いなどを育成する取組をしている。 ・同じ教員が同じ学年を複数年担当することがある傾向が見られた。 <課題> ・同じ教員が同じ学年を複数年担当する流れをやめ、個人のキャリアアップを促す必要がある。 ・校務分掌においても同じ教員が複数年担当する流れをやめ、個人のキャリアアップを促す必要がある。	学校課題研修のさらなる推進	・学校研修課題である特別活動をととして、学級会及び児童会において児童同士で合意形成を図るなど、児童のエンジェンシーを育成する指導ができる教員の育成を図る。	・学級会、委員会活動、クラブ活動などの特別活動において、1回目の開催前に校内研修で共通理解を図り、クラス間やクラブ間等でスムーズに開始できる手立てを実施したか。	・学級会、委員会活動、クラブ活動などの特別活動において、1回目の開催前に校内研修で共通理解を図り、クラス間やクラブ間等でスムーズに開始できる手立てを実施した。	A	・特別活動の校内研究は一区切りをつけるが、学級会、委員会活動、クラブ活動などの取組は非常に効果的であるため、今後も続けたい。また、経験に關係なくお互いに相談し、助け合える関係を維持していきたい。	・校内研究や教職員相互の相談が充実していることがうかがえる。 ・引き続き、人材育成に関する取組を積極的に進めてほしい。
		キャリアアップへの挑戦機会の提供	・各教職員のキャリア、強みや弱みを確認しつつ、キャリアnaviと照らし合わせながら、教職員への研修奨励を推進する。 ・キャリアアップへの人事配置の実施	・キャリアnaviと照らし合わせ、実績に基づいた研修の受講奨励をする。 ・各教職員のキャリアアップのため、仕事上で新しい挑戦ができるような機会を意図的につくったか。	・管理職との面談において、キャリアnaviと照らし合わせ、実績に基づいた研修の受講奨励を実施した。 ・各教職員のキャリアアップのため、仕事上で新しい挑戦ができる人事配置を実施した。	B	・各教職員が本校で働いている期間でキャリアアップができるよう、引き続き研修の受講奨励や新しいジャンルの研修への提案、新しい挑戦ができる人事配置を進めていきたい。	